

トーキョー女子映画部（株式会社 TS トーキョー）主催【**イイ女 GP2016 開催記念：海外ドラマファンサミット 2016**】について、ぜひとも貴媒体にてご掲載頂きますようお願い致します。

【イイ女 GP2016 開催記念：海外ドラマファンサミット 2016】レポート：DVD メーカー秘話、声優・湯屋敦子さん生吹き替えで会場大興奮。CM コンテストには逆転劇

トーキョー女子映画部は、7月某日、渋谷ヒカリエ 8/COURT にて、【イイ女 GP2016 開催記念：海外ドラマファンサミット 2016】を実施しました。本イベントは今回で2回目となりますが、どなたでも観覧できるようオープンスペースで行い、ご招待でお越し頂いたイイ女 GP 投票者の女子の皆さんほか、お立ち見エリアでは男女問わず一般の方にもたくさんご来場頂きました。

この日の最初のイベントメニューは、DVD メーカー担当者によるトークショー。今回は、株式会社 KADOKAWA(以下、角川) 藤田明さん、株式会社ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント (以下、ソニー) 平石京子さん、20世紀フォックス ホームエンターテインメント ジャパン株式会社 (以下、FOX) 鈴木章公さん (企業名 50 音順) に御登壇頂きました。



ファンに向けての挙手によるアンケートタイムでは、「何を観ようか決めるときに、A：予告編だけ観て決める、B：1話本編を観て決める」という質問をしたところ、Aが半数くらい、BはAよりもやや多い方が挙手。さらに、「途中で挫折するときにはどの辺りが区切りですか？」と聞いてみたところ、「とりあえずシーズン1までは様子を観る」という方は1/4くらい、「観始めたら全シーズン観る」という方は少数、「2,3話目とか自分のテンションが下がった時点でやめる」という方が圧倒的多数で、これには登壇者一同「わかりやすい反応ですね。シビアですね」と苦笑い。ソニーの平石さんは「5話くらいで盛り上がってくる作品もあるので、ぜひ5話までは諦めずに観てください」と懇願。角川の藤田さんは「最近映画のドラマ化というのも増えていて、2時間だったものをドラマにするので途中間延びしてしまっているのも致し方ない場合も

あり、途中でやめてしまうと、これからおもしろいのにといいこともあります。なので7話あたりまで観てもらえるとおもしろさをわかってもらえるんじゃないかと思います」と、もう少し長く見届けて欲しいと会場に呼びかけました。

さらに、“ここでしか聞けない裏話をぜひ”とリクエストしてみると、FOXの鈴木さんから「タイトルは言えないんですが、主人公が女性のドラマがありまして、シーズン2の途中で急に終わっちゃったんですよ。日本ではすごく人気があったドラマで、終わっちゃったことを残念に思っていた企業さんから、“お金を出すので、ぜひ続編を作って欲しい”というお願いをされたことがありました。いろいろな事情があつて残念ながら制作には至らなかったんですが、もしかしたら日本のお金で海外ドラマが作られていたかも知れない、という事がありましたね」と秘話を明かしてくれました。

次のメニューは「海外ドラマの魅力を伝えるCMコンテスト」。この日は決勝に残った7作品が上映され、業界関係者による審査と、ご来場女性の投票により順位を決定しました。見事1位に輝いたのは、京都から駆けつけた柴田沙紀さんによる「ミカクニンレバー」という作品。審査員だけの得点では2位でしたが、海外ドラマにちなんだわかりやすいオチが効いたコミカルな内容に一般票が多く集まり、逆転勝ちとなりました。



そして、この日の目玉は『BONES 一骨は語る』テンペランス・ブレナンや、『キャッスル／ミステリー作家のNY事件簿』ケイト・ベケットの声でお馴染みで、アンジェリーナ・ジョリーの吹き替えも多数担当している声優の湯屋敦子さんによるトークショー&生吹き替え。湯屋さんは海外ドラマの醍醐味であるキャラクターの成長ぶりについて、11年演じ続けている『BONES 一骨は語る』のテンペランス・ブレナンを例に、「だいたい1シーズンにつき1年かけて撮っていますが、最初若くてかわいかったブレナンも結婚して、出産して大人になっていくんですね。私も同じように11歳、年を重ねていくので、だんだん声質も変わっていくし、シンクロするんですね。そういう意味でもやっていて

楽しい作品です。エミリー・デシャネルも実生活で結婚して、出産されましたが、大きくなったお腹でも撮影を続けて、ドラマのストーリーもそれに合わせて作られたり、海外ドラマの柔

